

金鷄山 -99m-

平泉町

JR東北本線平泉駅

岩手県交通バス一関 - 水沢線鈴沢バス停下車

2001年4月29日

東北自然歩道「新・奥の細道」の調査中、常に気になっていたのが金鷄山である。平泉の各御所や伽藍は現世に浄土の世界を築くために浄土庭園を設けているがそれらの背景として金鷄山はなくてはならない存在だったのではなからうか。登山の対象となる山ではなさそうだが古来から名の知れた歴史ある山である。

柳之御所資料館を見学した後、金鷄山に登る予定を立てた。ちょうど資料館には平泉の航空写真が展示されていたので金鷄山周辺の地形やコースの確認をする。果たして登山道はあるのだろうか。写真では金鷄山の麓に至る車道があるのでそのあたりから登れそうと目処をつけた。

ホテル武蔵坊の裏側の車道を登って行く。S字状に曲がりくねった道を進むと右手に養鯉池、その奥に千手堂が見える。千手堂はその名のとおり本尊は千手観音だがその他に秀衡公の彫刻もあると御堂の前に記されていた。千手堂の参道入口に金鷄山の謂れが記された案内板が立っていた。

「金鷄山は藤原秀衡公が、平泉鎮護の為、黄金で雌雄の鷄を造り、漆詰めにして埋め、富士に形取り築



写真1 千手院

き上げた山であると、伝えられている。

藤原秀衡公時代の、由緒ある山では、東方東稻山に次ぐ山である。

古歌

朝日さし夕日輝く木の下に
漆萬盃黄金おくおく

読人不知

金鷄山登山口

頂上には、昭和三年十月、御大典を記念して平泉駅無事故祈願。職員一同に依って、金鷄山神社奉納する。」

登山口は千手堂の左にある。登りかけてすぐ右手に赤い柵で囲まれた領域がありその中に墓が二基立っていた。案内書きを見ると源義経公妻子の墓と



図1 コース略図

ある。こんな所にあったとは露知らず。義経ファンの観光客でもここに訪れるのは滅多に無いであろう。しばし墓前で合唱しながら古代東北の歴史ロマンに思いを馳せる。

「源義経公妻子の墓

源頼朝の威圧に依って藤原泰衡が高館に義経公を襲った。義経公は北の方と幼児を殺害し自害したと伝えられている。時は平安時代の文治五年(西紀一八八九)閏四月三十日,三十一歳で最期を遂げられた。このお墓は,高館で悲しくも露と消えた妻子の墓と伝えられているが,元は千手院境内で,ここから三百米程の南北金鷄山の山麓にあったが,ここに墓石を遷し供養を怠らない。」

林の中を進み途中で左に直角に曲がると金鷄山頂まで一気に登る坂となる。10分も歩くと山頂に到達した。中央に石祠がありこれが昭和三年に平泉駅から奉納されたものと思われる。三角点は少し離れた



写真2 山頂

ところにあった。周囲は雑木に囲まれその隙間から辛うじて下の景色が見える程度である。展望はあまり期待できない。

金鷄山は,かつては平泉のシンボルの一つ,また,松尾芭蕉が「奥の細道」平泉の段で「秀衡が跡は田野となりて,金鷄山のみ形を残す。」と記された山でもある。それから数百年経った現在も変わらぬ姿を残している静かな山であった。<完>